奈良県立医科大学附属病院長選考委員会（第２回）

日　時：　2020 年 1 月 30 日（木）18 時 30 分～20 時 00 分
会　場：　奈良県立医科大学　学長室会議室
出席者：　細井委員長、西浦委員、古家委員、高橋委員、田中委員、阪上委員、山上委員
欠席者：　なし
（事務局）大峯人事課長、長尾課長補佐、木下人事係長、長谷川主査

【議事】

１．はじめに
選考委員の補充について
本日の委員会の流れについて
公募への応募状況について

２．選考対象者との面談
・プレゼンテーション
・質疑応答

３．選考対象者の評価について
・面談の所感
・推薦の可否
・推薦理由の検討

【資料一覧】
・資料 1：奈良県立医科大学附属病院長選考委員会　委員名簿（2020 年 1 月 30 時点）
・資料 2：奈良県立医科大学附属病院長の選考に関する規程
・資料 3：病院長の選考・任命フロー及びスケジュール
・資料 4：奈良県立医科大学附属病院長選考に関する告示
・資料 5：奈良県立医科大学附属病院長選考基準
・資料 6：応募者からの提出書類
・様式 1：奈良県立医科大学附属病院長選考立候補届出書
・様式 2：履歴書
・様式 3：主な実績
・様式 4：所信表明書
・様式 5：奈良県立医科大学附属病院長選考立候補者推薦書
・資料 7：病院長選考応募者及び推薦者一覧

【議事内容】

1　はじめに

〇選考委員の補充について
・奈良県立医科大学附属病院長の選考に関する規程（以下、「選考規程」と表記。）に基づき、理事長指名の委員として本学整形外科学講座教授で附属病院副院長の田中氏が補充の委員となることを報告
〇全ての委員が出席しているため、出席者数が委員総数の過半数を満たすことから、委員会成立を報告

（事務局）
〇本日の委員会の流れについて
・公募への応募状況と選考対象者（応募者）からの提出資料を確認し、面談（プレゼンテーションと質疑応答）を実施する
・面談後に選考対象者について評価等を議論し、推薦の可否と推薦理由について協議、検討する

〇公募への応募状況について
・放射線医学講座教授で副院長、医療安全管理責任者の吉川氏から提出された応募書類について確認
（提出された書類は公募期間の〆切後に予め選考委員の間で共有している）

2　選考対象者との面談

〇選考対象者によるプレゼンテーション
・提出書類に基づいて所信を表明

〇質疑応答
（山上委員）
・働き方改革はどの病院も壁にぶつかるテーマだが、何か解決策となりそうなものはあるか
→　タスクシフト、ワークシェアを進めながら効果等を見定めていきたい

（古家委員）
・救急科を中心に当直など見ると非常に長時間の時間外勤務等が生じるが、解消策はあるか
→　当直体制の見直しは考えたい。画像転送など様々なツール活用による効率化で負担軽減を図り、当直人数を減らすことは模索したい

（阪上委員）
・医療安全の確保はセーフティネットなど仕組みづくりよりも周知することの方が難しいが、院内に上手く伝える方法はあるか
→　講習会の実施頻度を上げ、リスクマネージャーの各部署での活動を強化することで周知を図りたい
・初期研修医に医療安全に関わることをどのように伝えるか
→　採用時オリエンテーションのほか卒前教育も含めた医療安全の教育を充実したい

（古家委員）
・IVR 治療は非常に有用なものであるが、患者に対するリスクもある
　技術向上のために比較的リスクの高い手技にも取り組んでいる状況において、医療安全の観点から病院長としてどのように指導するか
→　最終ディフェンスラインとして他院でできないことを当院で取り組んでおり、いかに安全に行うか安全確実に実施できる手技については他学も交えて議論を重ねている状況でこれから十分に改善改良を期待できる。現状としては術中モニタリングで早期に異変を把握して危険を回避する。他学の救急科出身者などを受け入れて安全確保のための外部の知見を取り入れている。
・IVR 治療の適応から外れているかもしれないが、患者のために実施するケースはどう考えるか
→　リスクを把握して対応に備えるべく入念な術前ディスカッションを行うことでリスクを下げる

（西浦委員）
　中期計画には 2021 年 4 月に 24 時間 ER を立ち上げることを奈良県とも約束している。総論賛成各論反対となりやすいテーマであるが、どのような体制で実現するのか、持っているイメージを教えてほしい。
→　救急科を中心に各診療科の協力を得て人員を出してもらう。

（古家委員）
　ER は 365 日やることになる。各診療科からの手上げでは人員を出す診療科が限られている。現状では放射線医学から人員は出されていないが、今後どうするか。どこまで強制力を持たせるのか。
　→　IVR として 24 時間 ER の実現に向けて協力する

（山上委員）
　良し悪しは別として、和歌山県立医科大学附属病院では後期研修医の段階で 3 か月間は強制的に ER に従事させる仕組みを導入している
大学のあり方にもよる

（田中委員）
　吉川候補が病院長に選任されれば、ご自身が忙しくなると思うが、診療は大丈夫か
→それぞれ部門のチーフを設けて専門性高めている
　自身が病院長になっても院長職に専念でき、現在の診療体制は維持できる

（古家委員）
　選任された場合、教授職を継続するのか
→選考していただいたら、後任を選んで頂きたい
　後任教授が選出されるまでの間は、現准教授もいるので医療体制は維持できる

（委員長）
　選任された場合は教授職を兼務するのではなく専任するということか
→移行期間は頂きたいが、専任でやりたいと考えている

（髙橋委員）
　医療従事者の働き方改革について、人員が不足している中で、受けられないことが多いと思う
　募集をかけても応募がないが、何が問題であると考えるか、また案はあるか
→勤務形態柔軟に考えてはどうかと思う
　今後の課題だと思っている
　人件費は必要だが、人を採用することで医療従事者のワークライフバランスが保たれ、効率が上がる効果も期待できる
　バランスが大事であり、人件費がかかるから採用しないということにはならない

（古家委員）
　収益をどのように確保するのか
→患者獲得を目指して努力する
　奈良医大の特色を広報し、紹介患者を増やしたい
　今の医療圏では増えないので、国内外から広く呼びたい

（古家委員）
　現在でも入院外来ともに限界に近い状態かと思うが、増やせるのか
→今のワークフローの見直しをしたい

【ここで、候補者面談終了　吉川候補退出】

３　選考対象者の評価について

（委員長）
　吉川候補を次期病院長の候補者として推薦できる人物かどうか、その理由も含め、各委員のご意見、ご感想をお聞きしたい

（各委員からの主な意見）
・これから難しい時代であり、答えが出ないことが多い
・吉川候補は真摯に答えられたと思う
・副院長の経験が長く、医療安全の経験もある
・古家院長の路線を継承できる

以上のような理由から、吉川候補を次期病院長候補者として推薦できると結論付けた
今後公表する選考の経緯、選考理由の文面については、委員長に一任することとされた。

以上